

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.14 平成27年10月28日発行
発行責任者：高一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org



教育実践を紡ぐことで 子どもたちにより良い環境を

教育という営みは、日本国憲法のもとで目の前の子どもたちに寄り添い、民主的に行われていくべきものです。しかし、現実には管理と統制の考え方に基づいた施策が次々とおろされています。こうした中で、大切にしたいのは、教育実践を紡ぐことで立ち向かうという視点です。

学力にまつわる議論

8月末に、学力・学習状況調査の結果が公表されました。みなさんの街では、結果公表に向けた動きはどうなっていますか？ 学力・学習状況調査に代表される数値的な「学力」による、『できた・できない』という見え方が、教育施策に影響を与えています。

「学力」問題があります。もちろん、土曜授業だけで学力が向上するわけはありません。しかし、子どもたちの学びという観点では大いに関係します。私たちは今後、教育実践を紡ぐという視点でこの問題に對峙していかねばなりません。教師として子どもたちに良い授業をしていくということを、具体化する取り組みが必要です。

終わるか独自削減？ 賃上げ勧告も給与ダウン？ 賃金確定交渉はじまる

今年も賃金確定交渉の季節になりました。17年間、幾度と「今年で終わる」と言いながら続けられてきた道独自削減は、2013年の交渉で「2年間、削減率は計画（最大2.9%）の範囲内で話し合う」とされました。この行方が焦点のひとつです。

また、道人事委員会は月例給578円アップを勧告していますが、今年の4月から「給与制度の総合的見直し」により平均して2%の削減が行われています。このことから「給料が上がった！」という実感は伴いにくい程度にしかありません。

今年は教育長が交代。教育長にとっては初めての賃金確定交渉です。私たちの怒りの声を署名の形で届けることが大切です。ぜひ、署名に力を貸してください。



昨年の交渉の様子から

学校職員人事評価制度

現在行われている教職員の評価。「学校職員評価制度」と「勤勉手当の査定」と「月例給の査定」の3つの制度があります。道教委は二〇一六年四月からこれを統一する制度を始める考えを明らかにしました。「私たちが自主的に立てた目標をもとに評価され、その結果が給料に反映する」というイメージです。

このたび、運用上のシミュレーションとして、各管内にモデル校を定めました。管内では稚内港小と宗谷中です。教職員は、子どもたちを複数の先生方で力合わせしながら教育活動を行っていることから、勤務評価という仕組みはなじみません。職場の力合わせという教職員職場の風土が壊されないよう学習、運動を創ることが必要です。

学校づくりと人事の取り組み

十一月中旬からは局面接がはじまります。各学校では、その前段階として、異動希望状況の交流がされることとされています。「学校づくりと人事」の取り組みは、「民主的學校づくり」の観点から学校づくりを豊かにするものです。引き続き、分会会議での個々の課題意識や、一人ひとりの状況の理解と納得を求めあう取り組みを進めましょう。

また、女性部の生き生きアンケートの結果がそろそろまとまるころです。各支部では、街の教育環境についてまとめる際に協働の取り組みを進めましょう。

シリーズ「学ぶ」

私たちが子どもたちの学びをどう創っていくかということが問われています。私たちは、例えば「学力・学習状況調査」の結果公表に反対する……というように、考え方を示すだけでなく、教えるプロとして、学校の先生として、民主的學校づくりの観点から子どもたちの学びについて考えていく必要があります。豊かな教育実践を紡ぐための方策を学び合う必要があります。

12mの間隔で道に沿って木が植えてあり、一本目から八本目まで走る時、実際何m走ることになるだろうか。小学校3年生の植木算の問題です。先生がまず式だけ発表させました。

「12×8です」「いいです」「同じです」。別の考えがあります。12×7です。間が7つだからです。先生は「12×8」と「12×7」を板書し、どっちなんだらうという顔をしました。

「あつ、12×7だとA子がつぶやいた。間が7つだからだ。」「A子ちゃん、前に出て説明してくださいか」と、先生が指名した。A子は、黒板に書いてある木の間を指さし、間が7つあると言った。「あつ、そういうことか」と、二、三名の子どもがつぶやいた。

先生は、その中のB男に「黒板に書いてくれませんか」と言って、赤いチョークを手渡した。B男は、木と木の間に、チョークで印を書いていった。「1、2、3、4、5、6、7。間は7個です」。

「ああ、そうか」「12×7だ。何人かの子どもたちは下を向いて鉛筆を動かしている。きつと、自分のノートに書いてある木の間に実際に数えたり、印をつけたりしているのだらう」。

実はこの授業、教材研究の中で「木を8本書いたらみんな×7だとわかってしまうので、最初から黒板に書いてはいけないのではないかと先生方で話したそう。実際にその通りやっただ別の学級の授業では、「12×7です」とある子どもが発表しても、聞いて子どもたちは、なかなか×7の意味が理解できなかったそうです。

こうして日常の授業の様子を語ったり、学び合ったり……という文化がさなる広がりを持つことができれば、子どもたちの学びは今よりもっと豊かになるはず。そうした営みをみんなで創っていきたいです。

参考文献「初等教育資料2015年5月号」
算数科における自分や集団の考えを表現させる学び合いの授業
より引用・改変

若者の学びが深まる秋

青年部 センたまの様子から

青年部学習会、センたま in Soy aが10月10日(土)に行われました。当日は稚内北星学園大学の学祭が行われていたということもあり、学生の参加はありませんでしたが、7名の先生方が集い、学びました。内容は学期末に向けて評価と授業づくりについてでした。講師に浜鬼志別小学校の高橋哲雄先生をお迎えしました。高橋先生は、なんと学芸会前日にもかかわらず駆けつけてく

だきました。クイズ形式で評価について学び、授業づくりについては小学校4年生の算数、概数の単元の授業を実際に考え



疲れ、たまっていますか？

学芸会・文化祭、みなさんお疲れ様でした。子どもたちの笑顔が輝いたでしょうか？さてここからは学習に集中して…という流れですが、行事に全力を注ぎ、疲れもたまっているのではないのでしょうか？ここで疲れのセルフチェックをしてみましょう。

- ① 壁に踵とお尻、背中をくっつけて立ち、肩甲骨が壁から浮かずにつきますか？
- ② ゆっくりと上を向いたとき、痛み、不快感、吐き気はありませんか？
- ③ つま先立ちで10秒キープできますか？
- ④ 寝ている状態で片足ずつ上げたとき、重く感じませんか？

④番は難しいかもしれませんが、職員室でも出来そうなものを探してみました。周りの先生と声を掛け合ってやってみるのも良いですね。当てはまるものがあつたときは、疲れがたまっている可能性があります。「やらなきゃいけない仕事がある…」という意見はわかりますが、休憩も人間にとって必要なことです。たまには積極的に休んだり、1日に5分でもストレッチをしたりしませんか？元気な体があつてこそ、日々の教育活動に全力を注ぐことができます。これも子どもの笑顔につながる一つの方法ですよ！(endo)

秋になって、各支部では街の課題に即した活動が行われています。今年度、正式な支部として活動を始めた幌延の組合員のみなさん。9月6日は木澤教育長さんに支部立ち上げの挨拶へ行きました。緊張する中でも、宗谷教組の活動の意義について語った川口支部長と小林書記長。その後も人事の取り組みについて支部執行部会議で第一懇談資料を読み合うなど奮闘しています。ちなみに、幌延の支部書記局会議は毎回、街のご飯屋さんで美味しいごはんを食べながらやっています。こん

あなたのまわりに組合が。各支部の取り組みから

て発表しあいながら学びました。「私はこの部分を工夫して授業を組み立てました」「あ、なるほどね」という声がたくさん出ました。みなさんの授業案を聞き、自分の授業案を改善させていくことができました。今回のセンたまの中で、とても心に残った高橋先生の言葉があります。「合同教研とか、自分の実践をまとめて語る機会があれば、どんどん参加した方がいいよ。知識だったりスキルだったりをインプットする

ためには、アウトプットしないとね。苦しくて、自分を高めるために必要なことだから、僕は今までそうしてきたよ。」参加された方々の目が変わりました。実践を語り合う場としての学習会、センたま…。今後の方向性が見えてきたような気がします。センたまには臨時教職員部の先生方の参加が多くありましたが、北海道・札幌市教員採用試験の結果が先日発表されました。みなさんのまわりの臨時教員の先生方の結果はどうだったでしょうか？

な工夫も素敵です。稚内支部では、学校づくりと人事の取り組みのスタートに、分会訪問を実施しています。日ごろから「なかなか分会会議ができない」という声が聞かれる中では貴重な機会です。もうすぐ十七分会すべてとの対話が終わるとのこと。ここから運動づくりが広がることを期待します。今後、中頓別・浜頓別・猿払の三支部交流会も予定されています。「うちの支部もこんなやるよ(やったよ)」というものがあれば、ぜひ宗谷教組本部にも教えてください。(hahy)



学校の研修で奈良の小学校に視察研修に行ってきました。そこで校長先生から言われたことが、「夜9時に家に帰っちゃだめだよ！自分の時間も大切にしないと！」という言葉。どうすればできるのか…。帰りに稚内行き飛行機が欠航

したため、札幌駅で時間をつぶしたときに見つけた本が、残業をしない人の時短のワザというもの。「ほう、なるほど…」と思うこともあれば、「無理だよ、こんなの…」と思うようなことも(むしろ、こっちは多い)。とりあえず、仕事効率の良い朝、早く学校に行こうとは思っているものの、う～ん。どうにかして仕事の効率を上げられるようになりたいものです。みなさん、何か工夫されていることはありませんか？(endo)

今年度の正確な倍率は公表されていませんが、昨年同等の受験者数だとすると、小学校では北海道で約4.5倍、札幌市で約2.9倍と予想できます(宗谷教組調べ)。中学校は昨年度より若干採用人数が減ったようです。小学校では少し倍率が低くはなっているものの、依然狭き門となっています。合格された先生方、おめでとうございます。来年度も宗谷の子どもたちのために共に働けることを願っています。(endo)